

小川 有紀子 <ヴァイオリン>

大阪府箕面市出身。4歳よりヴァイオリンを始める。東京藝術大学音楽学部附属音楽高等学校卒業。東京藝術大学首席卒業、英国王立音楽院の大学院を首席卒業。

第36回全日本学生音楽コンクール西日本大会中学校の部第1位。第58回日本音楽コンクール入選。東京現代音楽祭室内楽コンクール第1位、併せて第1回朝日現代音楽賞を受賞。第7回東京国際音楽コンクール室内楽部門第2位、併せてルフトハンザ賞を受賞。英国王立音楽院の大学院へ留学、英国王立音楽院コンチェルトコンクール第1位、ハイドントリオ賞を受賞、メンデルスゾーン協奏曲コンクール第2位、当時の音楽院院長で世界的なチェリストでもあるリン・ハレル氏と数回にわたって室内楽を共演。朝日現代音楽賞受賞記念リサイタル。第28回ティボール・ヴァルガ国際ヴァイオリンコンクール第4位、ジュネーブにて受賞者コンサートに出演。ロンドン・セント・ジェームズチャーチにてリサイタル。

京都アマティホール、四日市四郷地区文化センター等にてリサイタル、NHK-FMリサイタル、竹ノ塚レクチャーコンサート出演。東京文化会館小ホールにて東京でのデビューリサイタル。ヴェルディ文化振興財団より年間最優秀演奏者賞「マイスター」を受賞。日本演奏連盟山田康子奨励・助成を得てカザルスホールにてリサイタル。2001年仙台フィルハーモニー管弦楽団入団。セレーノ弦楽四重奏団で原村音楽セミナー「緑の風音楽賞」受賞。緑の風音楽賞受賞記念リサイタル。2017年『小川有紀子リサイタルシリーズ』スタート。これまでに、ヴァイオリンを東儀幸、矢嶋佳子、日高毅、澤和樹、ジョルジュ・パウク各氏に師事、室内楽の指導を岡山潔氏に受ける。

筑波大学附属盲学校高等部特別非常勤講師を1999年～2003年まで、オホーツク紋別音楽セミナー講師を2016年まで務めた。また、2008年～2016年まで東京藝術大学非常勤講師を務めた。現在、仙台フィルハーモニー管弦楽団第2ヴァイオリン副首席奏者。紀尾井ホール室内管弦楽団メンバー。仙台ヴァイオリンセミナー主宰。ハナミズキ室内合奏団主宰。

森 純子 <チェロ>

広島市出身。11歳からチェロを始め、桐朋学園女子高等学校音楽科を経て同大学卒業。斉藤秀雄、倉田澄子、藤原真理の各氏に師事。卒業後、広島交響楽団に在籍。退団後は、1982年に結成したアルシェ弦楽四重奏団の団員として、19年間に亘り広島、岡山での定期演奏会の他、各地でシリーズコンサートを開催した。2003年からは「ひろしまチェンバーソロイストコンサート」を主宰し、国内外の演奏家と共に室内楽演奏会を開催している。また、チェロ・アンサンブル・サイトウのメンバーとしても、多くの国での公演やCD録音を行う。ピアニストのヨゼフ・ハラ氏、村上弦一郎氏、上野真氏等との共演の他、NHKBS、FM出演など、多彩な演奏活動が続ける。

現在、広島大学教育学部客員教授として後進の指導にもあたっている。



高旗 健次 <ヴィオラ>

広島大学卒業後、同大学大学院博士課程前期修了。ドイツ国立カールスルーエ音楽大学大学院芸術家養成課程、並びに同大学大学院国家演奏家試験課程ソリスト科に進学し、共に審査員満場一致の最優秀の成績を収め「ドイツ国家演奏家資格」を取得修了。第31回北九州芸術祭に出演。文科省長期在外派遣研究員(ドイツ)1年間。広島大学大学院教育学研究科海外派遣研修員(ドイツ)。

ドイツでのリサイタルでは「楽曲における細部へのこだわりと内容豊かな全体構成力」、またオーケストラとの共演では「表現力の非常に高い巨匠の名演奏」との評価を得る(いずれもドイツ・バーデン新報紙)。ドイツに在中には、ドイツ国内はもとより、クロアチア(ザグレブ)やボスニア・ヘルツェゴビナ(サラエボ)でも演奏を行う。帰国後は、広島大学において学部・大学院生の教育に従事する傍ら、定期的にソロリサイタルを開催。2021年には、E.イザイ作曲の無伴奏ヴァイオリンソナタ全6曲リサイタルを京都と広島で開催し、同年11月号の雑誌「音楽の友」誌上で「安定した正確なテクニック、表情の豊かさ繊細な音楽の構成で聴衆の心を捉えた」との評価を得る。また、ドイツ国立カールスルーエ音楽大学教授でヴァイオリニストの N.エアリッヒ氏や同大学教授でトランペッターの R.フリードリッヒ氏、東京音楽大学教授でチェリストの D.フェイゲン氏との共演、ソリストとしてオーケストラとの共演、ゲストコンサートマスターとして演奏会に出演するなど幅広く活動している。ヴァイオリンを玉井宣昭、市原利彦、田渕洋子、小川有紀子、田中千香士、N.エアリッヒの各氏に師事。室内楽を W. J. ヤーン氏に師事。現在、広島大学大学院教授(人間社会科学研究科音楽文化教育学領域)。2019年4月より2021年3月まで広島大学附属幼稚園第16代目園長。

第1回「赤いカンナの花」音楽会に寄せて

広島大学長 越智 光夫



ハナミズキ音楽事務所主催の第1回「赤いカンナの花」音楽会開催にあたり、共催の広島大学を代表して一言ご挨拶申し上げます。

東日本大震災の被災地に寄り添い、音楽を通じて心の復興に寄与する活動を続けている仙台市のハナミズキ音楽事務所が主催する本音楽会は、被爆樹木を用いて作られた広島大学のヴァイオリン、ヴィオラ、チェロによる演奏会であります。広島大学では、毎年8月6日の原爆の日に合わせて、平和企画を実施しています。その一環として3年前から被爆樹木を用いた楽器を製作し、被爆記憶の継承と音楽による平和発信に取り組んでおります。

本演奏会には、広島大学大学院人間社会科学研究科・音楽文化教育プログラムの高旗健次教授と学生たちも参加いたします。コロナ禍で演奏する機会の少なかった学生たちにとりまして、皆様の前で演奏できることは何よりの励みになると思います。

ご来場の皆さんが、被爆樹木から生まれた楽器が奏でる調べを通じて、平和の大切さに思いを致していただきますことを祈念して、お祝いの言葉といたします。



広島大学

2022年2月



被爆シダレヤナギ(中区青少年センター西側)と約240m離れた原爆ドーム遠景



2017年12月の養生作業の際に腐食部分を切断した際に被爆シダレヤナギ



2018年4月の似島小筏地区における原爆死御遺骨発掘作業の際に伐採したエゴノキ。この樹木から3~4m離れた地点から被爆者とみられる御遺骨が発見された



三原バイオリン工房にてヴィオラ製作中の三原博志氏(2020年6月2日)



エゴノキ材で製作したあご当て(上面/写真上)と(側面/写真下)



製作途中のヴィオラ(写真左/裏板の内側と側板。製作ラベルは貼っていない状態。写真右/裏板の象嵌細工。焦げ茶色の部分がシダレヤナギ材)



完成したヴィオラとヴァイオリン。写真左/ヴィオラ、写真右/ヴァイオリン



お申し出・お問い合わせはこちらから



ハナミズキ音楽事務所

〒981-0915 宮城県仙台市青葉区通町1-7-24-2801

担当者: 日下(クサカ) E-Mail.hanamizuki@ac.cyberhome.ne.jp

TEL.070-2644-6015 FAX.022-728-5045

こちらのQRコードからもHPをご覧いただけます▶

URL.http://hanamizuki-sendai.com/

ハナミズキ音楽事務所 検索

